

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム あいの里

(ユニット名) あいの里 壱

記入者(管理者)
氏名 吉津 大介

評価完了日 平成19年 11月 11日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みは特に行えずにいる。	○	地域の行事等にも事業所で出来ることを行っていきたい。また、地域の高齢者の方や介護や認知症などで悩んでいる人たちへの支援・相談も今後取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価前には会議にて、外部評価の意味などを説明し、また自己評価も全員で取り組むことにより、次へのより良いケアに活かしている。	○	自己評価の結果をまとめ、それを基に今他のスタッフは何を考えているのかを皆で具体的話し合っており、次へつなげていきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、委員の意見を取り入れ、サービスへ活かしている。	○	入居者の方の参加をと話しているが、今だ参加できずにいるので、参加して頂くようにしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1ヶ月に2回、市役所より相談員の方に来て頂き入居者の方の思いを感じて頂いている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特に取り組んでいない。	○	権利擁護については、知識が不足している部分も多いので、これから研修等があれば積極的に参加していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修への参加などで虐待について学び、また日々の生活においても運営者・管理者・スタッフ一同虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては、入居者の方の意見も聞きつつ、異動時には異動する旨を伝え、なるべく混乱せぬよう、担当を持っていたスタッフは移動しないスタッフとの話し合いを密にし、入居者の方の混乱を招かぬよう心がけている。	○	離職者の場合、突如やめてしまうケースが見られるため、スタッフに対しては1ヶ月以上前に届出を出すように指導していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及びスタッフに対して、機会がある度に研修会ならび勉強会に参加させている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・スタッフが今まで培ってきたネットワークを活かし相互の質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2~3ヶ月に1度、スタッフとの面接を通じ、意見交換を行い、スタッフの思いを理解するよう努めている。	○	定期的な意見交換を行っていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	できる限り色々な研修会等に参加させて、職員の向上心を持てる様努めている。	○	日々声をかけ会話を持つように心がけているが、今後は各々の実績に基づき、表彰制度等も取り入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	草・花・畑、家事全般、歴史、人付き合い、習慣など、更に教えて頂けるような接し方や環境作りに取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関わりを大切にし、いつでも遊びに来れるよう努めている。特に個々人の誕生会や様々なイベントを通じて、コミュニケーションを図ることが出来ていると感じる。また、たよりや電話連絡等もその都度行っている。	○	年に数回でもご家族の負担にならぬような、ご家族だけで過ごせる機会や帰宅できる環境を作っていきたい。また、入居者の方だけ優先してしまい、ご家族が二の次になる場面もあるので、ご家族への心配りもより一層大切にしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時やご家族との外泊・外出時連絡を取り合い、また手紙や電話・写真などで近況を報告し、本人とご家族のより良い関係作りに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族から情報をもらい把握していき、かかりつけ医や住んでいた地域の馴染みの店へ行ったり、馴染みの人などに割合行ったり、逢ったりしている。	○	遠くから来た方については、なかなか行けずにいるので、その方たちに対しての馴染みという部分でもっとみんなで話し合い、自分たちに出来ることを考え、本人の想いを汲み取っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方々それぞれの個性を把握し、他の方に対して長所をどんどんアピールしていき、間に入っていかなければならない部分は間に入り、入らなくてよい場面では入居者の方同士の関わりを大切にし、お互いを尊重し支えあう関係作りに努めている。	○	入居者の方の長所・個性をもっと把握して、スタッフが直接間に入らなくてもよい場面をもっともっと沢山作っていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されていた病院へ行った際にちよくちよく一緒に顔を出しに行ったり、電話連絡などで近況報告を行いつながりを大切にしている。また、入院により退去されたご家族と近くで会った際、気軽に声をかけて頂いた。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方の目線に立ち、日々の記録を活かし、気づきに対し皆で考え、その日のチームで前の日の出来事なども基に出来る限り本人の望む生活を考え、1日の生活に努めている。	○ 本人のニーズに応えることが出来ても、それが本当のニーズなのか？またそれに応えることにより、体力や認知力の低下につながらないように専門的な視点での思いや意向の把握に努めたい。また、今後はセンター方式などの活用やケアプランをもっとわかりやすくしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・これまでのサービス提供者の方や日々の生活を通じ馴染みの暮らしや生活環境においては把握できていると思う。	○ 実際、生活してきた環境に直接出向き、一緒になりその感覚・昔の事・歴史などをもっと感じている。本人の生活歴を感じ、これからの生活につなげていきたい。また、これまでの経過を途中から入ったスタッフも理解できるような工夫をこれからしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々人の日々の生活や心身の状態・本人の声をなるべく細かく記録に残し全員で考え把握に努めている。	○ 日々の記録をまとめたものを分かりやすく経過で追えるような書式を作りたい。センター方式の書式を参考にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の声を大切にしていき、スタッフの日々の気づきを参考にし、ご家族との意見交換を行うことにより、本人のニーズを見極め介護計画を作成している。	○ もっと深く追求し、掘り下げていける部分が入居者の方一人一人あるのではないかと日々考えている。もっと本人の言葉に耳を澄まして考えていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	突発的な疾患があった入居者の方に対して、医療面との連携のとれる計画を作成した。また、その方に関しては1ヶ月でプランを作成し、改善後、再度プランの変更を行った。その他にもその都度計画を作成するように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活記録の欄に、気づき・声・発見の項目があり活用し、各自気づいた事を記入し情報の共有に活かしている。また、個々人の介護計画・記録はいつでも見やすい場所におきスタッフ全員が見ることができ、見直しに活かしている。	○	気づき・声・発見の欄の項目について、日々空欄をなくしていきたい。また、情報の共有がうまくかみ合わない時もあるので、みんなで話し合っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ちよくちよくボランティアの方に来て頂く事により、入居者の方にとり大切な一つの関係が出来ている。また、音楽の好きな方がいらしゃるので、オーケストラを呼んだり、日々の生活を安心して送れるように定期的に消防署の方と共に避難訓練を行っている。	○	地域のカルチャースクールなどに参加していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、分からない事は地域の他のケアマネジャーや他グループホームの方たちに意見を伺っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて会う際に、分からない事などを聞いている。	○	地域包括支援センターの役割について、まだ勉強不足な点があるので、学び活用していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	将来的に専門医の方との連携そして関係を築き、認知症について医学的な部分をもっと学んでいきたい。
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅より愛用されていた品々を持ってきて頂き、ダメージの軽減に努めているが、中には早く帰りたい方にとっては、何で家からこんなに沢山タンズやら何やら持ってくるのと不満をあらわにされる入居者の方もおり、逆にダメージにつながるケースも見られる。	○	ホームへ来る前の段階で本人と話しあいを持ち、また、入ってきてからの話し合いの中で、一緒に馴染みの空間を作っていく形をとっていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居前の個人情報の同意書に基づいてプライバシーの尊重に努め、またその方にあった言葉かけ、そして何よりもその方の人格を尊重し、尊敬した言葉かけ・対応を常に心がけている。	○	日々の生活による馴れをなくし、いつもその方に対して、誠心誠意の対応をするように、これからも心がけていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の個性にあわせた対応や、本人の想いを自分で伝えられる雰囲気を作り、時・場所・周りの空間を考え、個々の認知症の症状を理解し、時には場所を変え自己決定を支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が好きな事、忘れてはいるが好きだった事を引き出し、本人がやりたい・やらなくちゃと思えるような空間を支援していき、本人のペースを大切にし臨機応変にチーム全体で支援している。	○	本人のペースを大事にする反面、居室にて過ごす事が多くなってしまふ方に対しては、これから先の事も見極めて、こちらから仕掛けていく場面作りやりフレッシュ出来る事などの取り組みについても、考えていかなければならないと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	個々人の身だしなみへのモチベーション・考え方を尊重し、また、若い頃はおしゃれであった方が認知症の進行により、関心が持てなくなってしまった方に関しては、こちらから声かけ等を行い出来ない部分は支援し、本人の意志に基づき本人・ご家族が望むよう支援している。	○	これからも女性らしさ、男性らしさ、本人らしさを失わないように努めていきたい。また、男性の身だしなみについて、やや疎かになる傾向があるので気をつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>歯の弱い方も、もっと楽しんで食べて頂けるように工夫したい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>一緒に白玉作りや焼き芋を焼いたりし、みんなで楽しむ時があるが、もっとその機会を多く増やしていきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	○	<p>色々な事がやりたい、やらなくちゃと思える環境作りをもっと考えていきたい。それをさらに本人の自信や意欲へとつなげていきたい。</p>


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	○	<p>出たがらない入居者の方について、以前は清掃センターへのゴミ出しがあったが、ゴミ出しがなくなり、役割がなくなり、外へ出る機会がまた少なくなってしまった。楽しみだけの外出という視点ではなく、役割としての行かなくちゃと本人が感じる気持ちを引き出す外出アプローチを再度見直したい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)</p>	○	<p>今年のご家族を含めた旅行に行けなかったので、企画倒れにならないように、しっかりとした企画を立案し計画を練り、実行に移していきたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	今後、こちらから積極的に協力しあう体制を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の望む生活を考えた上でリスクが伴う可能性にあるものに関しては事前にご家族に説明し、理解を得られている。	○	リスクだけ話すのではなく、日々の生活行動、現在の認知症の症状、心身の状態等も日々その都度会話する事でより一層の理解を得られると思うので、その部分での配慮も大切にしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の申し送りにて情報を共有し、また何かおかしいと感じた事があれば、そのままにせず、他スタッフやその日のリーダーやユニットリーダー、管理者へ報告し、出来る限り速やかに対応している。	○	気づきの力を高める為の勉強会を開きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋をファイリングし、分からない点は医師または薬剤師の方や、インターネット等で調べている。また、変更時は必ず記録し申し送りにて他スタッフへ伝達している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体を動かす機会をこまめに作り、水分も小まめに摂るよう工夫している。食事内容にも配慮し、なるべく下剤の使用を控えている。やむえない場合にはその方にあった下剤をその方にあった方法・時間帯を考慮し使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日、ハミガキをされている方もいるが、こちらからのアプローチがないとされない方に関しては、その方にあった声かけや一部手伝いを行っている。また、歯のない方においては、舌磨き等で清潔の保持に心がけている。また、適時歯科受診も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に食事・お茶を通じて記録に残している。また、食事の出す量を考え見目で圧倒されないように気配りをしている。また、食卓に食事の時には誰でも好きな物を飲めるように、水の他、牛乳・スポーツ飲料などを置いている。	○	嗜好を考えつつも、栄養の偏りがなるべくないように、また、水分が苦手な方においては、水分に代わる物(ヨーグルトや果物など)を摂取しやすいように心がけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入社時に感染症のマニュアルの配布、日々の生活においては、毎日手すりの消毒、外出後の手洗い・うがい。共有の手拭タオルは置かず、ペーパータオルの設置。全入居者の方・全スタッフのインフルエンザの予防接種。適時研修会への参加を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い後の煮沸消毒、まな板は使用後キッチンハイターにて洗い食器乾燥機にて干す。台拭きは一晚キッチンハイターにてつけ置きしておく。また、なるべく買い溜めはしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	平屋で和風なので、初めて来る人が「どこ？」と話されるほど家のように、いつでも安心して遊びに来て頂けるように玄関を寒くない時には網戸にしておき入りやすい空間にし、花などを飾りきれいに整え、畑を作り近隣の方との会話につなげたりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える自然の景色、庭の草花が季節感を感じさせてくれ、室内にも四季を感じれる生花や壁面作りを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の何箇所かあるベンチやコタツのある和室やリビングにて気の合った方同士で過ごされたり、一人過ごされたりと思いきいに過ごされている。また、飼っている蛙をリビングに置く事で一人ぼんやり蛙を見つめたり、蛙をきっかけに話が盛り上がりたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れた家具が置いてある方、ご家族 の方が模様替えをされたり、本人がホームセンター など新しく買って備え付けたり、本人・ご家族・ スタッフと共に人それぞれの居心地の良い空間を みんなで考えています。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝・夕の湿度・温度を記録し、こまめに換気等も 行っている。加湿器やお香なども取り入れ、室内 の湿度・温度そして気になる匂い等に注意してい る。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	安全な生活のための空間作りと共に、個々人の心 身の状態に応じた、何かやりたい・やらなくちゃ と思える物の設置、洗濯を干す場所やポットや コップの場所、ほうきの場所など認識できる箇所 に設置している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	自分の部屋が分かるよう暖簾の色を変えたり、表 札をつけたり、トイレも分かりやすくするため、 夜間は電気をつけたりと、個々人の心身の状態を 見極め、分かりやすいような工夫をしている。ま た、常にプラスに考え、混乱と捉えず、その時の 思いと捉え対応している。前向きに。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	今年は庭の畑が大活躍でした。土作りから始ま り、野菜の収穫、庭でのバーベキュー、芋煮会、 今では愛すべきペットになった蛙そして蛙の餌の 虫たちと入居者の方が中心となって起きた今年の 様々な楽しい出来事の多くはこの庭や畑で多くの 事が起こりました。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない <input type="radio"/> ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年は色々な虫たちなどをホームで飼ってみた。きっかけはスーパーにいた沢蟹。そして外にいたカミキリムシ、カマキリ。そんな中、蛙を飼い始めてから、意外に皆さん興味を示され、好きな方は1~2時間、蛙を見つめられ、蛙を通じて他の方とのコミュニケーションも増えたり、また、人それぞれの癒しにもなっている。蛙の存在がそれぞれの方々にとってのつながりのきっかけになった。蛙の虫かごの水の交換もひとつの入居者の方にとっての役割となり、逃げた蛙をつかまえるのもいい生活リハビリになっている。そんなひとつひとつの偶然や出来事をひとつひとつ大切に、生きる(活きる)力を支援している。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム あいの里

(ユニット名) あいの里 弐

記入者(管理者)
氏名 吉津 大介

評価完了日 平成19年 11月 19日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「お客様に対して、誠心誠意のケアに努め、お客様の満足と信頼を得る」という事業所の理念に基づきケアに取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を事務所及び玄関にかかげ、職員一人一人、その基本理念に基づいてケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	敬老会等の行事を行う時には、地域の皆さんも招待し、地域と一体になった行事に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝・夕の挨拶を散歩などで通る方々や隣近所の方々に笑顔で声をかけている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会等へ一緒に参加をしたり、隣の方へ入居の方が挨拶や会話を楽しめる環境作りを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みは特に行えずにいる。	○	地域の行事等にも事業所で出来ることを行っていきたい。また、地域の高齢者の方や介護や認知症などで悩んでいる人たちへの支援・相談も今後取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価には会議にて、外部評価の意味などを説明し、また自己評価も全員で取り組むことにより、次へのより良いケアに活かしている。	○	自己評価の結果をまとめ、それを基に今他のスタッフは何を考えているのかを皆で具体的に話し合っており、次へつなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、委員の意見を取り入れ、サービスへ活かしている。	○	入居者の方の参加をと話しているが、今だ参加できずにいるので、参加して頂くようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1ヶ月に2回、市役所より相談員の方に来て頂き入居者の方の思いを感じて頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特に取り組んでいない。	○	権利擁護については、知識が不足している部分も多いので、これから研修等があれば積極的に参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修への参加などで虐待について学び、また日々の生活においても運営者・管理者・スタッフ一同虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては、入居者の方の意見も聞きつつ、異動時には指導する旨を伝え、なるべく混乱せぬよう、担当を持っていたスタッフは移動しないスタッフとの話し合いを密にし、入居者の方の混乱を招かぬよう心がけている。	○	離職者の場合、突如やめてしまうケースが見られるため、スタッフに対しては1ヶ月以上前に届出を出すように指導していきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及びスタッフに対して、機会がある度に研修会ならび勉強会に参加させている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・スタッフが今まで培ってきたネットワークを活かし相互の質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2~3ヶ月に1度、スタッフとの面接を通じ、意見交換を行い、スタッフの思いを理解するよう努めている。	○	定期的な意見交換を行っていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	できる限り色々な研修会等に参加させて職員の向上心を持てる様努めている。	○	日々声をかけ会話を持つように心がけているが、今後は各々の実績に基づき、表彰制度等も取り入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	入居者の方一人一人が生き生きと生活していけるよう、毎日充実した日々を過ごして頂きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人からの訴えや必要に応じて、ご家族の方と連絡を取り、また面会にいらした時に入居者の方の様子を話し、本人に対して1番良い支援を考えている。	○	ご家族との連絡が、事務的な物が多くなってしまい、入居者の方に対して、どうする事が良いのかをもっと話し合える関係を作っていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の訪問調査やご家族の方の情報、入居されてからの本人の様子などを基に支援している。また、行事などへご家族に参加して頂き、より良い関係を築けるように支援している。	○	行事や外泊・外出などの機会を作り、本人とご家族の方の接する機会を多く持ち、ご家族との絆がこれから良い形で続くような支援を考えていきたい。また、連絡を密に取っていき本人の状況を、しっかりと報告して行き、ご家族ともより良い関係を築いていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人・場所をきちんと把握しきれていないように感じる。馴染みと離れてしまっている。介護に追われ行き届かない部分が多々見られる。	○	本人の思い出の場所、馴染みの人・場所を時間をかけて聞き出し、一緒に行き、本人の想いをかみしめ関係が途切れないようにチームで支援していきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の方一人一人の性格や特徴、傾向などを把握して、一人だけ孤立しないよう、一人一人の良い所を他の方に見て頂くような工夫をしている。また、1日何度もリビングへ皆さんが出てこられており、一人一人関係を築かれている。	○	もっと色々な形で入居者の方同士が関わりを持てる様な場面を作っていき、互いに信頼し支えられる関係を築いて頂く様な支援を考えていきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用を終了された方が、まだいらっしやらないので、今の所取り組んでいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の想いや暮らし方に対して、本人の意向を出来る限り受け止めるよう努めており、困難な場合であっても、本人の気持ちを大切に、本人・ご家族との話し合いを持つよう心がけている。まだ入居されて間もない方が多く「帰りたい」気持ちが強い方が多い。	○	一人一人担当スタッフをつける事により、より親密な関係を作り、その方の想いに出来る限り添えられるよう、多くの想いを聴き・感じ、生活に取り入れていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前のサマリーを見て、これまでの心身の状態・服薬状況・生活環境を確認し、ホームでの生活へ取り入れている。	○	まだまだ知らない事があるので、本人・ご家族との会話などの中から見つけていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居される前のサマリーを見て、これまでの心身の状態・服薬状況・生活環境の確認と現在の心身の状態や本人の表情やしぐさ、毎日の引継ぎの時間を持ち、チームで情報を共有し、現状の把握に努めている。	○	一人一人の過ごし方や心身の状態を細かく見極めて行くために、スタッフ一人一人五感を働かせ、現状をよく見て、これからも感じ取る力をつけていく努力をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族・担当ケアマネジャーから情報収集を行い、出来るだけ本人の想いに即した介護計画を作成している。また、会議等でスタッフ同士意見の交換を行い、アイデアを出し合っている。	○	本人がより良く生活して頂く為に本人・ご家族と話し合う時間をもっと多く取りたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、ケース記録を細かく記入しておき、介護の見直しが必要である場合には、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動や様子をケース記録へ細かく記入する事、スタッフ同士の連絡・報告・相談を密にする事で、スタッフ間の情報を共有しており、随時話し合いを行っている。	○	ケース記録をより細かく項目を作り、ケアの実践・気づき・工夫などをスタッフ全員で共有していける様にしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方とふれあえる機会がまだ少ないと思うが、ボランティアの方がいらして、話をしたり一緒に家事をしたり、オーケストラ・踊りなどの文化交流に来て下さる方がいる。また、行事等においても地域の方に参加して頂き、交流を図っている。	○	今後はもっともっと地域の方々と交流を持てる場を沢山作っていきたい。また、本人の意向や必要性に応じて、自分たちからもっと地域の方にグループホームをアピールしていく事が大切であると思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所、取り組みを行っていない。	○	必要に応じ、他のサービスとの連携を図っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所、協働してない。	○	地域密着型サービスという事で地域包括支援センターとの協働は切り離す事が出来ないと思うので、相談や情報収集に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を尊重し、かかりつけ医にその都度受診へ行っている。また、かかりつけ医のいない方に関しては、ホームの協力医の先生との連携も大切にし、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医と言われる方が近くには見つからず。	○	将来的に専門医の方との連携そして関係を築き、認知症について医学的な部分をもっと学んでいきたい。
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された方がまだいない。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ、いらっしゃらないが、先の事を今から考えていくよう、本人・ご家族の想いを聞き考えている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これから先迎えるであろう方々について、本人・ご家族がどのように考えているのかを日々の生活の中で聞き、チーム全体で話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時、慣れ親しんだ家具や持ち物・食器や湯呑みを持って来て頂き、出来るだけ側に居て、寂しさを癒せる様、気配りに注意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居前の個人情報の同意書に基づいてプライバシーの尊重に努め、守秘義務を守り、一人一人の人権を尊重し、心無い声かけや対応をせぬよう、一人一人の性格や話し言葉に合わせ対応している。時折、大きな声で話してしまう事があるので気をつけていきたい。	○	これからも守秘義務をしっかりと守っていく事。一人一人の誇りを大切にするために、その方その方の個性に合わせて、言葉・対応を考えた対応に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々人の想いや伝え方の表現が違うので、言葉かけだけではなく、言葉ではないコミュニケーション方法やジェスチャーなど五感に働きかけ、本人が決められるよう、納得して頂けるよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切にしたいと考えているが、どうしてもスタッフ側の都合になってしまう事がある。食事のペースを気にされる方に対して、その方のペースを合わせて一緒に食べたりしている。	○	スタッフが自分の仕事に追われていると、入居者の方のペースが分からなくなってしまうので、一人一人のペースを大切にし、信頼関係を築き、本人の生活の流れを考えていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	お化粧をされる方、お化粧が好きではない方、洋服に気を使われている方等、本人らしさを大切にし、個別の対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	メニュー作成にも一緒に関わって頂き、楽しみの一つにしていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	日々の排泄チェックを行う事で本人のリズムをつかみ、排泄の失敗を失敗と捉えた声かけを行わないようにこれからも気をつけていきたい。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	少しでも不安が残っていると、寝付けない方に対して、不安のない生活を考え、安心して気持ちよく休息して頂けるよう、1日を通しての一人一人の様子をもっと細かく見極めていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	○	自分の役割を持たれた入居者の方に対して、その延長線上に達成感や日々の生活への喜びを感じて頂けるように支援していきたい。


項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	所持やお金の使用については自由であるが、現在は事務所の金庫にて保管しているケースが多い。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	外へ散歩へ出かけたり、ドライブ・買物などにその日の希望に合わせて行っている。また、昼食やおやつを庭で食べたり、公園で食事をした時もあった。外出の際には、入居者の方同士の交流も大切にしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	紅葉・お花見・足湯、バーベキューなどへ個別あるいは、何人かで出かけている。	○	希望に応じ入居者の方・ご家族に楽しんで頂けるような企画を考えていきたい。また、その為にはどんな支援が必要なのかを考えていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	本人が不安な時やご家族に伝言がある時など、電話を使って頂き、少しでも安心して頂けるように支援している。	○	手紙のやり取りも出来る方には、出して頂けるよう働きかけていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	自由に遊びに来て頂けるよう配慮している。また、家族だけでゆっくり、のんびり過ごせる空間を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメントをその都度行い、身体拘束しなくとも、リスクを回避する方法や認知症の症状の正しい理解をチームで話し合ったり、勉強会を開くなどし、また、身体拘束の正しい知識・理解についても配布される資料などにより、学び取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	今後、こちらから積極的に協力しあう体制を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒・やけど・骨折等起こりうる事を入居時に説明し、納得して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ケース記録に記入する事や、申し送り・連絡ノートを活用し情報を共有している。	○	気づきの力を高める為の勉強会を開きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診付き添い時、お薬手帳に記入し薬に対する説明を聞き、処方箋の内容を確認し副作用についても、インターネットを利用して調べている。また、個別にファイルを作っている。	○	新人スタッフから薬に対する知識が不足しているとの意見があったので、その都度、薬の説明をしたり、勉強会なども開きたいと感じる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、水分量・排便の確認を行い記録に残している。また、小まめに水分を摂取して頂き、散歩などの運動や食物繊維の多い食品を取り入れ、それでも見られない時には、下剤を用いるなどし、本人になるべく不快感を与えないように心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕に口腔内の清潔を保つように支援しており、定期的に歯科への受診も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人の心身の状態・年齢に応じ、量やカロリー、栄養バランスを栄養士のスタッフとともに考えている。	○	水分を摂りたがらない方に対して、摂って頂けるようにもっと工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入社時に感染症のマニュアルの配布、日々の生活においては、手洗いやアルコール消毒を徹底している。また、インフルエンザ予防接種や定期的な健康診断を行っている。	○	肝炎や感染症の検査も必要に応じて行いたい。日頃のうがい・手洗いをこれから気をつけていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買出ししており、出来るだけその日に使い切るようにしている。まな板や包丁は夜間、ハイター消毒をしている。うがい・手洗いも徹底している。	○	定期的な食器の消毒も行いたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者の方が地域の方と親しみやすくして頂けるよう、道ですれ違う時などは挨拶を忘れない様に、玄関も入りやすいよう、明るく見えるよう、また、入り口には椅子を置き、体の不自由な方でも気軽に入りやすいよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光が入りすぎないように、ロールカーテンを調整したり、生け花を飾り季節感を感じて頂いている。また、浴室・トイレなどは不潔に感じられないように毎日掃除をしている。	○	これから入居者の方の作った作品等もリビングや廊下に飾っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、そちらで過ごされたり、和室にて過ごされたりと様々。入居者の方同士で過ごす時間はリビングが多い。	○	2~3人で過ごせるスペースを作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎年、敬老会には力を入れており、入居者の方・ご家族はもちろん、地域の方にもスーパーやなじみの理・美容室さんに頼み、ポスターを貼らせて頂き、近所の方にはチラシを配り、参加を呼びかけ、年を増すごとに地域の方が参加される人数も多くなってきた。敬老会では、日頃の感謝の気持ちも込め、無料にて各種出店や飲み物も用意しており、余興・ビンゴゲームなどをし、また、地域の芸達者の方も歌や踊りを積極的に披露されており、年々グレードアップしている。今後は地域のイベントとして根付いていき、ふれあいの場を日々の生活にも広げていきたい。また、日々の生活においても、入居者の方の色々な想いをすぐに気づき、その時々により良い対応・言葉かけに力を入れていきたい。